

とやまDXパートナー登録情報

事業者名 社会福祉法人おおさわの福祉会

代表者	理事長 岩井 広行	問合せ先	理事長 岩井 広行
所在地	富山市下夕林141	電話番号	0764671000
会社設立日	平成10年7月22日	Webサイト (問合せフォーム)	https://osawano.com/
従業員数(人)	280		

営業エリア

☒ 県内全域

その他

富山市

砺波市

立山町

高岡市

小矢部市

入善町

魚津市

南砺市

朝日町

氷見市

射水市

滑川市

舟橋村

黒部市

上市町

得意業種(上位5項目)

☐ 製造業

☐ 卸売・小売業

☐ 建設業

☒ 医療、福祉

運輸業、郵便業

金融業、保険業

宿泊業、飲食サービス業

不動産業、物品賃貸業

教育、学習支援業

その他サービス業

その他

支援可能分野

別紙のとおり

使用可能ツール・システム

介護・医療分野でのDX・ICT推進にかかる各種ツール
<https://robotcare.jp/jp/interview/04>

支援実績

県内外の介護事業所へのロボットやICT機器導入にかかる現場の生産性向上支援など

2025年 施設見学者 300名超
セミナー等による講演実績 20回
公益社団法人全国老人福祉施設協議会 生産性向上推進委員会 委員長
厚生労働省 老健事業DX推進関係委員会 委員

価格体系の公開状況

☒ 基本的な料金を公開している

【別紙】支援可能分野(複数選択)

①業務のデジタル化に向けた環境整備

- ペーパーレス化の推進支援(紙書類の電子化・ワークフロー化・文書共有システム導入支援等)
- オンライン会議システムの導入・活用支援
- コミュニケーションツール(チャット・共有・タスク管理等)の導入支援
- 生成AIの業務活用環境の導入支援(プロンプト設計、社内利用ルール整備、活用トレーニング)
- クラウドサービス利用環境の構築(メール、ストレージ等の基本的SaaS設定・移行)
- 勤怠・人事評価などバックオフィスのクラウド化支援
- オンライン研修・eラーニング環境の導入支援
- 社内情報共有ポータル構築支援(規程・マニュアルの電子化／ナレッジ共有基盤構築)

②業務プロセスのデジタル化・自動化

- 電子契約システム導入支援
- オンライン決済システム導入支援
- RPA導入支援(業務分析、ロボット作成・定着支援)
- SFA／CRM導入支援(顧客情報管理、営業支援システムの導入・活用)
- Webサイト・ECサイトの構築・改善支援
- データ分析基盤の構築支援(販売・顧客・業務データの可視化、簡易BI導入 等)
- IoTデバイス導入の初期支援(設備データの可視化、センサー導入、モニタリング)
- AIチャットボット導入支援

③デジタル技術を活用した業務最適化

- デジタルマーケティング戦略支援(SNS・SEO・広告・MA活用 等)
- 予知保全システム導入支援(設備データ分析等)
- 物流・在庫の最適化支援(IoT・AIを活用した在庫管理・配送最適化)
- スマートファクトリー化支援(設備連携、品質データの自動収集、工程データの最適化)
- パーソナライズ顧客体験の提供支援(レコメンド、顧客行動分析 等)
- デジタルツイン構築支援
- VR／ARを活用したシミュレーション・トレーニング支援
- データドリブン経営の導入支援(KPI設計・経営ダッシュボード作成)
- AI／機械学習の導入支援(モデル作成、画像認識、不良検知、需要予測 等)
- サイバーセキュリティ高度化支援(ゼロトラスト導入、継続的な脆弱性診断 等)

④デジタル技術を活用したビジネス変革・価値創造支援

- ビッグデータ分析・可視化支援
- 経営レベルでの生成AI活用支援(戦略策定、仮説設計、マネジメント活用)
- ブロックチェーン活用支援
- CO2可視化・削減システム導入支援
- 企業間データ連携・エコシステム構築支援
- 新たなデジタルビジネスモデル創出支援(サブスク、プラットフォーム、デジタルサービス)
- DX文化醸成・組織変革支援(意識改革、アジャイル体制整備、DX推進体制構築)

ICT・介護ロボット導入による ケアの質向上、スタッフの定着促進

— 富山市・社会福祉法人おおさわの福祉会 地域密着型特別養護老人ホームささづ苑かすが —

福祉医療機構では、地域の福祉医療基盤の整備を支援するため、有利な条件での融資を行っています。今回は、その融資制度を利用された富山市にある地域密着型特別養護老人ホーム「ささづ苑かすが」を取りあげます。同施設は、ICT・介護ロボットを活用することにより、ケアの質向上と働きやすい職場環境づくりを推進しています。その取り組みについて取材しました。

地域に根ざした 介護サービスを提供

富山市にある社会福祉法人おおさわの福祉会は、「私たちは、皆さまが安心して幸せな生活を、住み慣れた地域で営んでいただくために貢献していきます」という法人理念のもと、地域に根ざした介護サービスを提供している。

同法人の設立経緯は、平成5年に「大沢野地域福祉計画」が策定された当時、地域には特別養護老人ホームが1カ所もなく、町長の要請により地元開業医が中心となり、平成10年に社会福祉法人を設立し、特別養護老人ホームささづ苑を開設したことに始まる。

その後、デイサービスセンター、居宅介護支援事業所、地域包括支

援センターなどを運営し、平成29年には富山市の公募事業の採択を受け、地域密着型特別養護老人ホームささづ苑かすがを開設している。

さらに、同法人は令和6年4月に地域の医療法人が運営する介護老人保健施設、グループホーム、小規模多機能型居宅介護、デイサービスセンターの事業譲渡を受け、事業規模を拡大させるとともに、現在の法人名（旧法人名…宣康康久会）に改称している。

事業譲渡の経緯について、理事長の岩井広行氏は次のように説明する。

「事業譲渡を行った医療法人は、当法人と同様に大沢野地域で医療・介護事業を展開していました。令和5年6月に『運営する介護事業所4カ所を受け入れてほしい』という申し出があり、地域の利用者の生活を守るために受け入れました。事業譲渡に伴い、事業所数は7事業所から11事業所、職員数は130人から250人に拡大しています。また、法人名を変

施設の概要

社会福祉法人おおさわの福祉会 地域密着型特別養護老人ホームささづ苑かすが

〒939-2226 富山市下タ林 237

TEL 076-468-1000
FAX 076-468-3001
URL <https://osawano.com/>

開設：平成29年8月

理事長：岩井 広行

施設長：古柴 政美

入所定員：29人

併設施設：居宅介護支援事業所、地域包括支援センター

法人施設：特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホーム、小規模多機能型居宅介護、デイサービスセンター2カ所



省エネ性の高い施設として 光熱費6割を削減

平成29年に開設した地域密着型

特養「ささづ苑かすが」の入所定員は29人で、全室個室のユニット型特養となつ



▲ささづ苑かすがの受付。地域包括支援センター、居宅介護支援事業所の窓口を併設



▲最先端の省エネルギー技術の活用により、光熱費は一般的な福祉施設と比較して約6割の削減を実現する

ている。建物は省エネルギー性の高い先進的な施設として、平成28年度に経済産業省のZEB実証事業で採択されている。

ZEBは、Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略称で、太陽光発電や自然エネルギー活用、高断熱、高効率換気を行う空調設備、エネルギーマネジメントシステムなど、省エネルギー技術と再生可能エネルギーを組み合わせることで、建物で消費する年間のエネルギーをおおむねゼロにすることを目指した建物を指している。

ZEB実証事業の採択を受けると、省エネルギーに関する設備費の3分の2を補助金として受けることができ、同施設は最先端の省エネルギー技術の活用により、施設全体の光熱費は一般的な福祉施設と比較して約6割の削減を実現しているという。

利用者・スタッフに選ばれる 魅力ある職場づくりに取り組む

さらに、同施設ではICT・介護ロボットを積極的に導入することにより、利用者のケアの質向上とともに、スタッフの定着促進に取り組んでいる。

「ICT・介護ロボットを導入したきっかけとしては、当施設は山間部に立地していることもあり、開設時にスタッフを募集しても人が集まらないという経験をし

ました。介護現場で人材不足が慢性化するなか、利用者だけでなく、就職希望者から選ばれる魅力ある職場をつくることを目指し、①福祉機器・介護ロボット活用による腰痛予防対策、②DX・ICT推進による現場の生産性向上、③法人ブランドアップのためのチャレンジ、④積極的な外部への情報発信という4つを方針に掲げ、他施設との差別化を図っています」。

ICT・介護ロボットの導入の流れとしては、令和2年度の事業計画で5S（整理、整頓、清掃、清潔、習慣）の推進と、3M（ムリ、ムダ、ムラ）の削減を打ち出し、1年間の活動のなかでスタッフ全員で介護現場の課題を抽出。令和3年4月に「ICT推進委員会」を設置し、不要な業務を削減するとともに、ICT・介護ロボットの導入によりケアの質の向上と業務の効率化に取り組んだ。

介護記録に要する時間が 大幅に短縮

介護業務の生産性向上では、骨伝導インカムや音声で介護記録が入力できる「CareWiz ハナスト」（株式会社エクサウィザーズ）、介護ソフトの「CAREKARTE（ケアカルテ）」（株式会社ケアコネクト

体操などにも意欲的に参加するなど、意思表示をする場面が多くなり、何よりも表情が豊かになるという効果がみられました。

「眠りSCAN」は、インカム、音声入力システムとも連動しているため、これまで入居者が離床すると、タブレットやパソコンに情報が入っていたが、現在は端末を確認しなくてもインカムに音声で情報が入り、すぐに駆けつける必要性を判断して対応することができ、スタッフの負担軽減にもつながっているという。

さらに、職員の腰痛予防対策としては、移乗サポートロボット「Hug」（株式会社FUJI）と、

移動式スタンディングリフトを導入し、移乗による身体的な負担軽減を図っている。「Hug」は、ベッドから車いすの移乗、座位間移動、立位保持をサポートする機種で、吊り上げ式のリフトとは異なり、利用者の脚力を活用した移乗介助が可能となっている。これらの機器の導入後、腰痛を理由とした離職者は1人も出ていないという。

「介護業務の効率化により、短縮した時間は食事や排せつなどの直接介助や個別ケア、入居者とのコミュニケーションに充てられるため、ケアの質を高めることにつながっています。また、ICT・



▲カフェスペースを設けた地域交流ホール。地域住民への無償開放を行っている



▲図書スペースでは、入居者は中庭を眺めながら読書を楽しむことができる



▲▼職員の腰痛予防対策として移動式スタンディングリフト（写真上）、移乗サポートロボット「Hug」（写真下）を導入



▲骨伝導インカムを使用し、音声入力で介護記録を作成する様子。業務の効率化により利用者への直接介助に充てる時間が増加



▲勤務表作成ソフトの導入により、作成時間が大幅に削減するとともに、職員は各自のスマホで確認できるため、ペーパーレス化にもつながっている

ジャパン）を導入している。骨伝導インカムは、複数職員間での同時通話や録音機能を備え、「ハナスト」と「ケアカルテ」と連動することにより、利用者の見

守りやケアを行い

ながら、音声入力で介護記録を作成することが可能となっている。音声と文字で記録が残るため、申し送りとしても活用することができるといえる。

「骨伝導インカムと音声入力システムを導入した効果として、標

準勤務時間当たりの介護記録に要した時間が導入前の33分から17分に大幅に短縮しました。その一方で、記録した情報量は2倍となり、効率化と記録の充実化によりケアの質を高めることにつながっています。この機器を導入しておもしろいと思ったのは、一般的にICT導入に抵抗感がある年配スタッフが多くなか、パソコンのキーボード入力が負担になってきた50〜60歳代のスタッフが推進役になってくれたということです。外国人介護人材が増えてきているなか、外国人の多い施設ほど音声入力は有効だと感じています」。

そのほかにも、さまざまなアプリケーションで作成されたデータ、FAX、スキャン文書を一元化管理する「DocuWorks（ドキュワークス）」（富士ファイルムビジネスイノベーション）や勤務表作成ソフトを導入し、業務の効率化やペーパーレス化を実現。複合機で使用する出力用紙は月3500枚、FAX送受信用紙は月795枚の削減につながっているという。

ICTを活用した生活習慣の改善

ICTを活用したケアの取り組み

介護ロボットを導入する際のポイントとしては、経営層が導入する機種やシステムを選定し、職員に使用を促すのでは浸透しません。まずは現場の課題を職員と共有することから始め、課題の改善を図る機種・システムを職員と一緒に選定していくことが重要だと考えています」。

魅力ある職場づくりが職員の確保・定着につながる

同施設は、職場環境の改善とともに、ICT・介護ロボットを活用した業務の効率化を実現していることが評価

され、令和5年度「介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰」を受賞している。

さらに、就職希望者を選べる魅力ある職場づくりに取り組むことにより、介護スタッフは正規職員、パ

意欲的にチャレンジする習慣が浸透



社会福祉法人おおさわの福祉会
理事長 岩井 広行氏

当法人は「Do & Think」（とりあえずやってみよう）をポリシーに掲げ、職員が自発的に活動し、法人が活動を後押しするという習慣が浸透しており、意欲的にチャレンジする職場風土があることが強みとなっています。

今後の展望としては、事業譲渡を受けた事業所の運営を軌道に乗せていくとともに、必要に応じてDX・ICT化を進めていく予定です。また、新たに受け入れた職員に対しては、社会福祉法人としての役割や当法人の理念・ポリシーを浸透させていくため、全体の説明会だけでなく、ランチミーティングを通して全職員と意見交換をしていきたいと考えています。

みでは、入居者の睡眠状態を把握し、生活リズム改善につながる、見守り支援システム「眠りSCAN」（パラマウントベッド株式会社）を導入している。

「眠りSCAN」は、マットレスの下に設置したセンサーにより、睡眠時の呼吸、心拍、寝返りなどを測定し、睡眠状態のデータをリアルタイムで確認することができ、データを分析することで質の高い睡眠の提供や入居者の生活習慣の改善につなげることが可能となっている。

「眠りSCAN」を活用した支援事例として、ある男性入居者（92歳、要介護5）は、昼夜逆転の傾向があり、1日の睡眠時間は平均1時間59分、夜間の中途覚醒は6時間以上、15回以上が医療機関受診の目安となる周期性体動指数は241回と多い状況でした。入居者の生活習慣を改善するため、スタッフは2カ月間かけて、日中の離床を促すとともに、ご本人の気分にあわせた活動を行い、離床時間を増やすことに取り組みました。その結果、睡眠時間は平均7時間3分に延伸し、中途覚醒は約4時間、周期性体動指数は52回に減少しました。入居者は日中の活動量が大幅に増え、車いすで他ユニットまで自走したり、介護

ート職員ともに安定して確保することができているという。

「とくに新卒の採用につながっており、令和3年度は8人、4年度は7人の新卒者を採用しています。応募した動機を聞くと『同じ介護の仕事をするのであれば、最先端の現場で働きたい』という声が多く、他施設との差別化により、たとえ通勤時間が多少かかってでも関係ないと考えるスタッフが多い傾向があります」。

ICT・介護ロボットを活用するなど、魅力ある職場づくりを推進する同施設の今後の取り組みが注目される。